

# 福島大学 教職大学院案内

大学院人間発達文化研究科教職実践専攻



## ふくしまの教育を支える ミドル・リーダーを育てる

福島の教育課題を認識し、新たな教育の探究により  
未来を創造する教員を養成する大学院

- ミドル・リーダー養成コース
- 教育実践高度化コース
- 特別支援教育高度化コース



授業力



新たな自覚



省察力



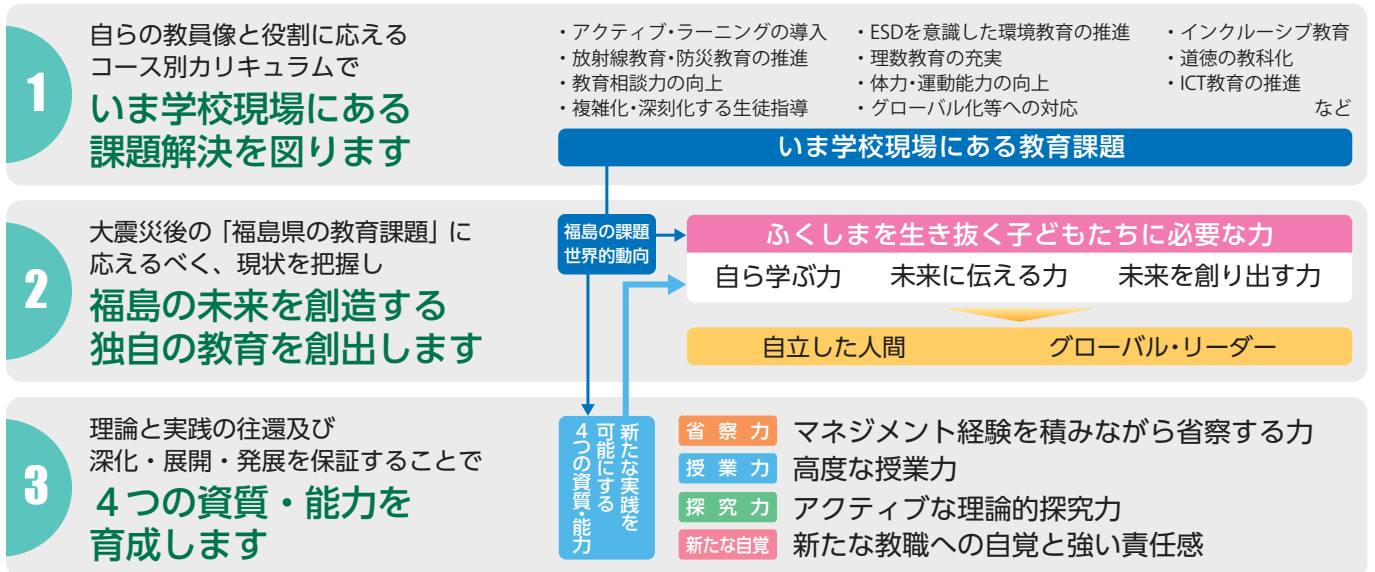
探究力

# 教職大学院とは？

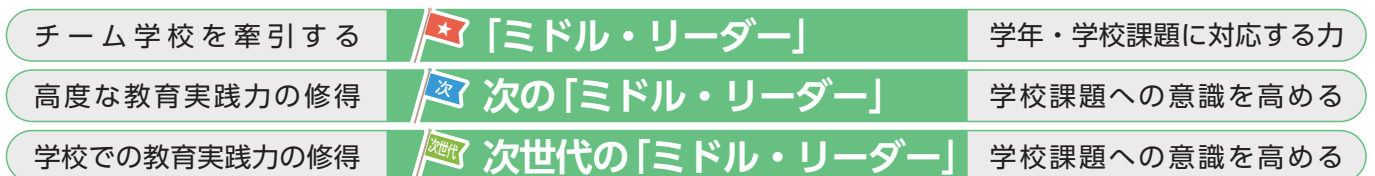
学校現場の教育課題を研究し、その成果を地域や現場に還元していくことで、教員としての資質・能力向上を目指す大学院です。

福島大学教職大学院は、福島県教育委員会と教育課題を共有し、ふくしまの未来を創造する力を高めます。

## 福島大学教職大学院の特徴



## 理論と実践の往還



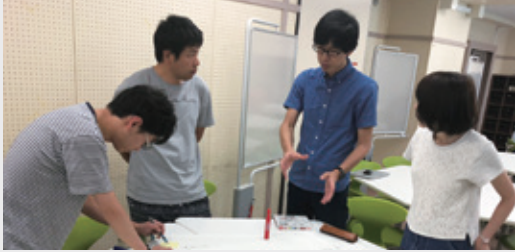
学校現場における課題と必要な理論をていねいにつなぎ、PDCAサイクルをベースとして、課題の発展的な解決を目指します。また、ミドル・リーダーとして、これからの福島における教育を支える「真に学び続ける教員」としての資質・能力を育みます。

## 各コースの特徴

教職経験や自らの教員像と役割に合わせて、「ミドル・リーダー養成コース」、「教育実践高度化コース」、「特別支援教育高度化コース」を選択します。

### ミドル・リーダー養成コース

### 学年・学校経営課題への対応力を磨く



#### ★ ミドル・リーダーを目指す方

##### 教職経験10年程度以上の方

自らの教育実践力(授業力、生徒指導力など)をもとに、学期、年間等の見通しを持ち、学年レベル、学校レベルの課題に対応する力や、学校マネジメント力を身につけたい方

### 教育実践高度化コース

### 基盤となる教育実践力を磨く



#### 次 次のミドル・リーダーを目指す方

##### 教職経験3年以上の方

1～2校で教職経験があり、様々な実践課題が見え始めた方で、さらに高度な実践力または学校マネジメント力を身につけたい方

※教職経験10年程度以上の方も選択できます。

#### 次世代 次の世代のミドル・リーダーを目指す方

##### 大学院進学を希望する学生の方

教員免許状(一種)取得見込みで、多様な現職教員と交流することを通じて、教育実践の課題を総体として理解し、学校教員としての自覚を持ちたい方

### 特別支援教育高度化コース

### 多様化に応える教育実践力を磨く



#### ★ ミドル・リーダーを目指す方

##### 教職経験10年程度以上の方

自らの教育実践力(授業力、生徒指導力など)をもとに、学期、年間等の見通しを持ち、学部レベル、学校レベルの課題に対応する力や、学校マネジメント力を身につけたい方

#### 次 次のミドル・リーダーを目指す方

##### 教職経験3年以上の方

障害の重度化・重複化に対応できる専門性の高い特別支援学校教員を目指し、学校マネジメント力または高度な実践力を身につけたい方

※教職経験10年程度以上の方も選択できます。

#### 次世代 次の世代のミドル・リーダーを目指す方

##### 大学院進学を希望する学生の方

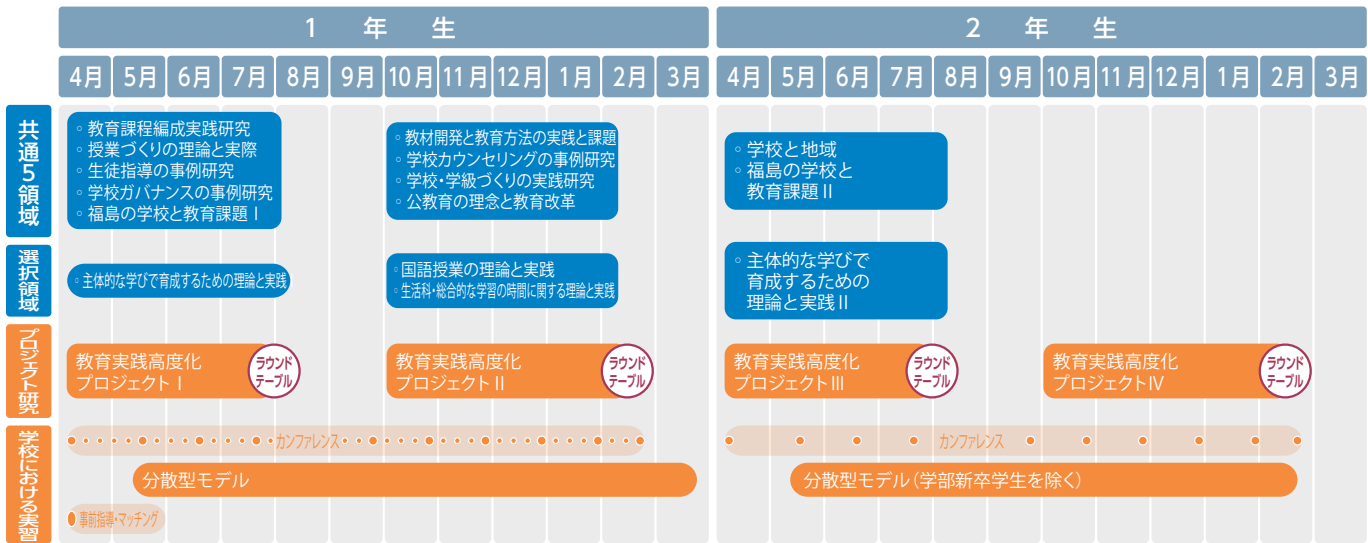
教員免許状(一種)取得見込みで、障害の重度化・重複化に対応できる専門性の高い特別支援学校教員を目指す方

## 教育課程

カリキュラムは、「共通5領域」、「選択領域」、「学校における実習」、「プロジェクト研究」に分かれています。また、理論と実践の往還を進める場であるラウンドテーブルに年2回参加・実践報告します。

科目領域		コース	ミドル・リーダー養成コース	教育実践高度化コース	特別支援教育高度化コース
理論	共通5領域 必修20単位	<b>現代的な教育課題への基礎対応力を形成</b>			
	選択領域 選択8単位	学校改革領域 学校マネジメント科目 学校改革科目	授業改善領域 教科横断型授業改善科目 各科授業改善科目	特別支援に関する理論と実践領域 特別支援に関する理論と実践科目	
理論と実践の往還		ラウンドテーブル			
実践	プロジェクト研究 必修8単位	学校課題対応プロジェクト研究 授業実践高度化プロジェクト研究 特別支援教育実践プロジェクト研究	実践の省察 → 課題の明確化 → 解決法探索 → 計画実践 → 分析評価 → 報告書作成 自らの課題を明確にして必要な理論・方法を学び 方策を計画・実践して結果を分析・評価		
	学校における実習 必修10単位	★ 学校課題対応実習 (中堅現職学生) ★ 教職専門実習Ⅱ (中堅現職学生) ★ 学校支援実習Ⅱ (中堅現職学生)	次世代 長期インターンシップⅠ・Ⅱ (学部新卒学生) 次 教職専門実習Ⅰ (若手現職学生) 次 学校支援実習Ⅰ (若手現職学生) 次 教育実践高度化実習 (若手現職学生)		

# 教職大学院での学びのイメージ



## ミドルリーダー養成コースの実習

- ★ 教職専門実習 II**  
学校参観・教育委員会の訪問や学校でのジョブ・シャドーイングをおこないます。
- ★ 学校支援実習 II**  
授業・学校行事等に参画しチーム学校のあり方を検討します。  
学部新卒学生のメンターも務めます。
- ★ 学校課題対応実習**  
公開研究や校内研修の企画・運営に参加します。



## 教育実践高度化コース(若手現職学生)の実習

- 次 教職専門実習 I**  
先進的な研究校を参観します。
- 次 学校支援実習 I**  
連携協力校の授業や学校行事等を支援します。
- 次 教育実践高度化実習**  
連携協力校で授業研究・提案授業等を実施します。

## 教育実践高度化コース(学部新卒学生)の実習

- 次世代 長期インターンシップ I・II**  
教員の仕事を総体として理解するとともに、実践から課題を見いだします。

## カンファレンス(週間・月間)への参加

現場での実習や支援を振り返って大学教員からアドバイスを受たり、学生や教員で事例検討をしたりします。



## ラウンドテーブルへの参加・報告

5~6名の小グループで報告し討論することで、教育現場での実習や支援を省察し、次の活動へと活かします。県内外からの参加者を募り、大規模に開催します。



# 教員紹介



准教授 阿内 春生

研究  
テーマ 市町村議会を中心とした  
教育政策決定過程の研究

教職大学院では学校経営関連の授業も担当します！  
なじみのない分野と思わず一緒に頑張りましょう。



特任教授 片寄 一

研究  
テーマ 特別支援教育を推進するための  
学校間連携についての  
実践研究

子ども一人一人の教育的ニーズに対応した指導や  
支援の方法について一緒に考えていきましょう。



准教授 坂本 篤史

研究  
テーマ 教師の学びを促す  
授業研究のあり方

授業実践の分析と教師の学びについて研究してい  
ます。授業の事実から共に学んでいきましょう。



特任教授 糀田 惣男

研究  
テーマ 社会科教育の課題と魅力あ  
る授業づくりについての研究

小・中学校での社会科教育の課題から、子どもに  
とって魅力ある社会科の授業を一緒に考えていき  
ましょう。



教授 谷 雅泰

研究  
テーマ 明治期地方教育行政史/  
デンマークの教育

公教育とはどうあるべきか、歴史や外国の事例か  
ら考えています。実践の基盤になる教育観を鍛え  
ましょう。



教授 中田 スウラ

研究  
テーマ 生涯学習社会における学校・  
家庭・地域教育の連携・協働  
に関する研究

持続可能な社会の創造を進める対応力を生涯にわ  
たり獲得するため、学校・家庭・地域教育に必要な  
連携・協働について探究しましょう。



教授 松下 行則

研究  
テーマ インテグレイティブ・シンキ  
ング、『学び合い』、カルタ  
でつくる道徳授業の研究

学級経営や生徒指導を視野に入れた道徳科授業づ  
くりを通して、「すべての子どもの価値観が尊重さ  
れる」学校を実現しましょう。



特任教授 大関 彰久

研究  
テーマ 社会の変化に対応した  
特別支援教育のあり方

これまでの経験を基に、共生社会の形成に向けた  
特別支援教育の更なる充実と発信に力を注ぎたい  
と思います。



教授 菅家 礼子

研究  
テーマ 質の高い身体教育

学ぶ喜びを味わいながら、人間存在の基盤である  
身体の可能性を開く体育授業の実現を目指して研  
究しています。



特任教授 佐藤 和彦

研究  
テーマ 国語科学習指導法の研究/  
カリキュラム・マネジメントと  
学校経営

新たな福島教育創成に向けて、「震災体験が切り  
拓いていく教育」について共に考えていきましょう。



特任教授 鈴木 昭夫

研究  
テーマ 「深い学び」をめざす理科授  
業の在り方に関する研究

理科教育を通して、「主体的・対話的で深い学び」に  
ついて実践的に研究し、これからの教育について  
考えてみたいと思います。



教授 鶴巻 正子

研究  
テーマ 知的障害や発達障害のある  
子どもの読み書き支援の実  
践的研究

特別支援教育のさらなる発展と指導力向上をめざ  
し、ニーズのある子ども達への支援を一緒に考え  
ましょう。



准教授 橋本 美智子

研究  
テーマ 学習指導法の研究と  
教材開発

中学校英語教諭、教頭、教育委員会指導主事の経  
験を基に、教員に求められる資質・能力、実践的な  
力について一緒に考えていきたいと思っています。



教授 宗形 潤子

研究  
テーマ 子どもの主体性、学びに関  
する研究/生活科における  
砂遊びについての研究

現場の先生方と子どもの学びや授業について一緒  
に悩み、考え、よりよいものを目指しています。仲  
間となって一緒に学びましょう。



特任教授 小川 裕

研究  
テーマ 小学校音楽教育における指  
導法の研究および教材開発

子どもたちが楽しく音楽にかかわり、音楽を学習す  
る活動そのものを楽しんだり、音楽に感動したりす  
るような授業づくりを追究します。



特任教授 齋藤 幸男

研究  
テーマ 学校経営に関する  
実践的研究

今学校改善が求められています。どの子ども思う存  
分学べる学校・学級づくりを学校現場とともに探究  
します。



特任教授 芝田 直久

研究  
テーマ 社説・コラム等の授業での活  
用、スピーチや実用英語の  
研究

英語を話すためには、文法等の英語そのものの知  
識だけでなく、様々な分野に興味を持ち、知識を  
たくさん増やすことが大切です。



特任教授 高橋 正人

研究  
テーマ 高等学校における国語科教  
育に関する指導方法につ  
いての研究

生涯にわたる学びの礎となる「考えること」と「表現  
すること」の楽しさを国語科の授業にもたらしたい  
と考えています。



特任教授 内藤 良行

研究  
テーマ 図画工作科で育みたい  
学力と授業展開及び評価

「表現」することの楽しさと人間形成上の意義を子  
供の姿から実証し、学びがいのある造形表現授業  
の在り方を追求していきます。



特任教授 浜島 京子

研究  
テーマ 子どもの家庭生活と  
その教育

家庭生活に対する意識や態度の変容(高まり)をも  
たらす家庭科のあり方について、一緒に考えてい  
けたらと思います。



教授 森本 明

研究  
テーマ 算数・数学の授業と  
カリキュラムの構成

思考する楽しさを伝えたい。その実現には実践を  
ふまえた教材や授業の研究が必要かつ重要だと考  
えています。

## 在学院生の声

### 教育実践高度化コース 2年



**中畑 純**

(白河市立白河第二小学校籍 現職派遣院生)

教師として日々授業を行うことが当たり前。しかし、「学ぶとは?」「教師とは?」「授業とは?」としっかりと立ち止まって見つめ直したい。そう思っている現職教員の“敢えて立ち止まる機会”となるものが教職大学院です。教職大学院では、教職大学院の先生方の学術的な理論、現職院生の異なる経験・校種・専門教科の視点、子どもと教師の間に立つ学部卒院生ならではの柔軟な発想から議論を重ねていきます。その中で新たな視点を得ながら授業や教師としての在り方を見つめ直し、追求できることが、教職大学院の大きな魅力と感じています。

### 教育実践高度化コース 2年



**千葉 颯雲**

(白鷗大学卒 学部卒院生)

昨年度の教職大学院での一年間は、学びが多く、有意義に過ごすことができました。教職大学院では、連携協力校で一年を通して実習を行うことができます。実際に子どもとかわかり、参観だけでなく実践授業も行うことができ、教育実習では経験できなかったことや学びが多くあります。また、実習は現職の先生と共に行うことができるため、実習での気づきや実践授業の振り返りを共有することで、自分の気づきや学びを深めることができます。現職の先生方は学校種が様々なため、実習だけでなく、先生方の研究もとても勉強になります。現場に出る前にこのような経験をすることができるのは教職大学院の魅力です。

### ミドル・リーダー養成コース 2年



**渡部 美沙**

(会津若松市立一箕小学校籍 現職派遣院生)

学校現場で「チーム学校」の大切さが意識される中、ミドル・リーダーの役割も重要性を増してきています。しかし学校現場では、それについて深く考える機会もゆとりもあまりなかったように思います。教職大学院では、授業や研修会への参加を通して教育事情を学び、新しい知見を得ることができます。さらに、様々な校種の現職院生と学部卒院生と一緒に協議する中で、今までになかった視点や気づきを得ることもできます。連携協力校では、大学院生という立場で外から学校を見つめ直す機会を与えていただき、固定化されてきた視野を広げるきっかけになりました。ミドル・リーダーの在り方を模索する貴重な機会を得ていることを日々実感しています。

### 特別支援高度化コース 2年



**村澤 梨沙**

(福島県立いわき支援学校籍 現職派遣院生)

現場にいると、自分の実践をじっくり省察する機会を作るのが難しく感じるがあると思います。教職大学院では、これまでの実践を客観的に振り返り、多様な観点から議論することで、色々な角度から物事を考えたり、新たな視点で発想したりする力を高めることができると思います。様々な校種や専門教科の現職院生、学部院生と情報交換し、それぞれの立場からの意見を聞く中で、発見や刺激があることも、教職大学院の魅力だと感じます。現在の教育の状況を見つめ、これからの社会に求められる力をどのようにとらえ、どのように育むべきか、学校や教員の在り方について考える貴重な機会でもあると思っています。

## 福島大学 教職大学院Q & A

**Q1**

今までの大学院修士課程との違いは何ですか?

大きな違いは、学校現場を通して高度な実践力を身につけることを目指していることです。

**Q2**

修士論文は書くのですか?

修士論文の提出は求めません。代わりに、日頃の実践を理論的にみつめて省察した成果をまとめた実践報告書を作成します。

**Q3**

学校における実習はどの学校でやることになるのですか?

大学近郊の連携協力校(附属学校を含む)で実習を行います。

**Q4**

プロジェクト研究は、小・中・高・特別支援等の校種や教科などは、自分の希望するもので取り組めるのでしょうか?

はい。自身が希望する校種、教科での実施が可能です。実施テーマについては、実習校とのすりあわせが必要となります。

**Q5**

教職大学院の施設や設備等、学習環境はどのようになっていますか?

大学ではPCタブレット、プロジェクター等のICT環境が整備された共同スペースがあり、専用の机が貸与されます。もちろん学内の図書館等も利用可能です。

**Q6**

教職大学院に入学する前や在学中に教員採用試験に合格した場合、採用名簿登録期間を延長してもらえますか?

福島県教育委員会では申請により、在学期間(2年間)について採用名簿搭載期間の延長が可能です。手続き等は教育委員会にお問い合わせください。

## 取得できる学位・免許

教職修士(専門職)の学位が2年間の課程で取得できます。  
以下の専修免許状が取得できます。

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状 (国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)
- 高等学校教諭専修免許状 (国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語  
農業、工業、商業、水産、福祉)
- 特別支援学校教諭専修免許状 ※特別支援教育高度化コースのみ
- 養護教諭専修免許状
- 栄養教諭専修免許状

## 募集概要

※内容は予定であり変更する場合があります

### 求める学生像(アドミッションポリシー)

地域の教育課題について理解を深め、幅広い視野を備えるとともに、授業力、マネジメント力など高い実践力を身につけ、常に学び続け、教育課程の改善や学校改革をけん引する教育のミドル・リーダーをめざす学生を求めます。

### 募集人数と選抜方法

詳細は、大学webサイト及び学生募集要項をご覧ください。

**募集人数** 16名(うち現職教員8名程度)

**出願資格** 大学を卒業した者(卒業見込みの者)で、教員免許状(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・養護・栄養の普通免許状一種)を取得(見込みを含む)している方

#### 選抜方法

- |   |  |
|---|--|
| <div style="background-color: #c0c0c0; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <span style="font-size: 10px;">一般入試</span> </div>          | <p><b>対象</b>：出願資格を有している方</p> <p><b>検査項目</b>：小論文、学習履歴レポートに基づく面接(口述試験を含む)、出身大学(学部)の成績証明書</p>   |
| <div style="background-color: #c0c0c0; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <span style="font-size: 10px;">現職教員<br/>特別入試</span> </div> | <p><b>対象</b>：出願資格を有し、出願時まで3年以上の教職経験及び出願年度内に勤務実績のある方</p> <p><b>検査項目</b>：実践記録レポート、面接(口述試験を含む)</p>  |
| <div style="background-color: #c0c0c0; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <span style="font-size: 10px;">学類生<br/>特別入試</span> </div>  | <p><b>対象</b>：出願資格を有し、以下に該当する方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 福島大学人間発達文化学類を卒業見込みである</li> <li>● 卒業研究指導教員による推薦を得ている</li> <li>● 実践研究の課題が明確で卒業後の入学を確約できる</li> </ul> <p><b>検査項目</b>：学習履歴レポート、成績証明書、面接(口述試験を含む)</p> |

### 学 費

**入学生** 282,000円

**授業料** 535,800円(年額)

※福島県教育委員会派遣の方は入学生料の半額を免除します。

福島大学大学院人間発達文化研究科教職実践専攻(教職大学院)は、令和2年度より専門実践教育訓練給付金制度が利用できる対象校に指定されました。詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください。

▶ [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html)

お問い合わせ



人間発達文化学類 支援室

〒960-1296 福島市金谷川1番地

TEL 024-548-8101 FAX 024-548-3181